

ファイト

No.38

通算戦績:30戦23勝(7KO)6敗1分

長い間の応援 ありがとうございました

岩井大はプロボクシング選手を引退します。

7月22日の試合にTKOで負け、モチベーションの維持、厳しいトレーニング、あるいは体力面などを考え、ここで引退し第2の人生に進むことにしました。

思い返せば16歳からボクシングを始め、高校生プロボクサーとして17歳でデビューし、アマチュアボクシングの経験もなく30歳までの15年間にストイックに、まるで修業僧の如く、真剣にボクシングと向き合ってきました。

プロボクサーとしての生涯戦績は30戦23勝6敗1分、勝率は79.6%でした。勝率8割という高さでしたが、念願のチャンピオンベルトを腰に巻くことはできませんでした。

現在の日本プロボクシングランキングはフェザー級8位、過去の最高位は東洋スーパーフェザー級1位、日本フェザー級1位というものでした。日本ランキングに10年間在席していましたが、ジムの移籍、鼻骨折、2度の網膜剥離を経験するなかで、その度ごとに立ち上がってきました。

ボクシングで経験した様々なことが大の血肉となり、これからの人生の糧となっていくでしょう。大にとって2020年は新たな幕開けとなります。これまで沢山のみなさんから応援をいただき本当にありがとうございました。感謝しています。これからもよろしくお願ひします。

大の言葉

15年間初志貫徹を貫いてきたボクシング人生ですが、このたび引退することを決めました。

いじめられっこがダイエット目的から始まったボクシングも気づけば30戦に至りました。今でも拳歴をみると全ての対戦相手の顔、癖、弱点、対戦する前に計画した作戦が思い浮かびます。

『努力に勝る才能なし』を座右の銘にしていたとおり、一切の嘘いつわりのない姿を試合当日に見せるため日々練習をし、負けた試合後は人目もはばからず控室で大泣きした涙もろさは、裏を返すと1試合1試合に全てをかけて練習してきた気持ちの表れでした。

勝って勝利者コールを浴びるとき、今までの苦労が全て報われる感覚になります。その感覚を23回味わえたことは、この後の人生において大きな財産になり、日々の暮らしに活かしていきたいと思ひます。

応援者がいて、光を浴びて、賞賛を受け、人を殴って称えられる特殊な競技に『ボクサーは引退したらただの人』という昔から伝わる言葉があります。今、その本当の意味が感じられていて、これからも奢ることなく地道に現役生活同様に目標に向かって一直線に過ごして行きたいです。

競技人生15年間本当に本当に本当にありがとうございました。僕のプロ人生を応援していただいた人、関わっていただいた人、心の底からみなさんを愛しています。

『努力に勝る才能なし』

岩井大

岩井 大 ファンクラブ機関紙(年4回発行)
 発行者: 岩井 淑
 住所: 〒262-0032
 千葉県花見川区幕張町4-2 LM3-104
 連絡先: Tel:043-272-0825 Fax:043-272-0825
 URL: http://kuchan.ec-net.jp/index.htm
 Mail: iwai-8man8@marble.ocn.ne.jp



初勝利 高校生プロボクサーとして17歳でデビュー

【戦歴】

2006/09/11 ○4R判定 3-0(39-37, 39-37, 39-37) 潮田 宗紀(新日本木村)
 2007/03/12 ○4R判定 3-0(40-36, 40-36, 40-37) 西山 慶彦(白井・具志堅S)
 2007/06/11 ○4RTKO 酒井 隆(ファミリーフォーラム)
 2007/12/10 ○1RKO 十倉 真一(輪島功一S)
 2008/08/05 ●4R判定 0-3(37-39, 37-39, 38-39) 阿部隆臣(新日本大宮)

■2009年度東日本新人王予選

2009/08/19 ●4R判定 0-3(37-39, 37-38, 37-38) 打馬 王那(ワタナベ)
 ※東日本新人王敗退

2009/10/28 ○5RTKO 安住 幸一郎(角海老宝石)
 2010/03/11 ○6R判定 3-0(59-56, 58-56, 58-57) 大沼 弘宣(協栄)
 2010/07/23 ○5RTKO 平山 悦久(ONE・TWOスポーツ)
 2010/11/26 ○8R判定 2-0(78-75, 78-75, 76-76) 松崎 博保(協栄)

■WBCユースフェザー級シルバー王座決定戦

2012/02/19 ○7RTKO デノン・カグオン(比)
 ※WBCユースフェザー級シルバー王座獲得(のちに返上)

2012/08/10 △1R負傷引分 阿部隆臣(新日本大宮)
 2012/10/08 ●8R判定 0-3(75-77, 75-77, 76-77) 阿部隆臣(新日本大宮)
 2013/01/21 ○8R判定 3-0(79-74, 78-75, 77-76) 藤沢一成(レパード玉熊)
 2013/06/10 ○8R判定 3-0(79-73, 79-74, 78-75) 山元博嗣
 2013/08/30 ○8R判定 3-0(80-73, 78-74, 78-74) 増田 靖之(石神井S)
 2013/11/29 ○8R判定 2-0(76-75, 76-75, 76-76) 佐藤 通也(石丸)
 2014/03/04 ○8R判定 3-0(78-74, 78-75, 78-75) 石川昇吾(新日本木村)
 2014/06/25 ○8R判定 2-1(77-75, 77-75, 76-77) 伊藤 圭太(花形)
 2014/12/08 ○8R負傷判定 (79-73, 79-74, 78-73) 小川拓己(草加有沢)
 2015/04/13 ○6RTKO 上野 則之(RK蒲田)

■OPBF東洋太平洋スーパーフェザー級王座決定戦

2015/08/10 ●10RTKO 伊藤雅吾(伴流)
 ※OPBF東洋太平洋スーパーフェザー級王座獲得失敗

2016/06/09 ○3RKO 林崎 智嘉志(八王子中屋)
 2016/10/25 ○8R判定 3-0(79-73, 79-73, 79-73) 篠原武大(全日本パブリック)
 2017/01/31 ○8R判定 3-0(79-73, 79-73, 78-74) 山口翔太(真正)
 2017/04/21 ○8R判定 3-0(78-74, 78-75, 76-76) 斉藤正樹(Team 10COUNT)

■日本フェザー級最強挑戦者決定戦

2017/10/21 ●8R判定 0-3(75-78, 75-77, 76-77) 源 大輝(ワタナベ)
 ※最強挑戦者決定戦敗退

2018/04/10 ○8R判定 3-0(78-74, 77-75, 77-75) 河野 洋佑(新日本木村)
 2018/12/20 ○8R判定 3-0(78-75, 79-74, 79-73) スパイシー松下(ゼレス)
 2019/07/22 ●4RTKO 渡辺大介(ワタナベ)